

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	西淀川
学 校 名	大阪市立佃小学校
学校長名	齊藤 昇

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）
 - ・主として「知識」に関する問題（A問題）
 - ・主として「活用」に関する問題（B問題）
- (2) 質問紙調査
 - ・児童に対する調査
 - ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・佃小学校では、第6学年 61名

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語・算数とも平均正答率が全国を少し上回るか、ほぼ同じの結果であった。全体的には基礎的・基本的な知識・技能は身につけてきているといえるが、学習指導要領の領域ごとに見れば、課題があるものがある。

国語においては、要旨を捉えたり、目的に応じて文章を書く力に課題がある。

算数においては、数量や図形をもとに答えを求めることに課題がある。

平均無回答率は全国に比べても低く、解こうとする意欲、学習への構えはできている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕 国語Aでは4領域のうち、1領域で全国平均を上回ったものの、「書くこと」「読むこと」の2領域で大阪市平均を下回り、課題がみられた。しかし、国語Bでは、3領域とも全国平均を上回り、一定の成果がみられた。全体的にみて、要旨を捉えたり、目的に応じて文章を書く力に課題があることがわかった。

〔算数〕 算数Aでは4領域のうち、3領域で全国平均を上回り、1領域で市平均を上回り、一定の成果がみられた。算数Bでは4領域のうち、2領域で全国平均を上回り、後の2領域で市平均を上回り、同じく一定の成果が見られた。しかし、数量や図形について解答していくことに課題があることがわかった。

「言語力や論理的思考の育成」や「習熟度別少人数授業の実施」等により、着実に成果を上げてきているが、大阪市小学校学力経年調査の結果から分析・考察を行い、学力向上に向け、個に応じた指導による授業の工夫・改善などを図る必要がある。

質問紙調査より

朝食についてはほぼ全国平均と同じで、きちんと食べていると児童は多く、基本的な生活習慣は身につけてきている。家で計画的に学習することについては、全国平均・市平均を下回り、家庭学習のあり方を児童はもちろんのこと、保護者にも懇談会や学校・学年だよりなどを通じて、さらに啓発していく必要がある。また、学校に行くのが楽しいと思っている児童が多いのはうれしい結果であるが、自己肯定感が全国平均・市平均を下回り、あらゆる教育活動の場面でよいところを認めてほめ、自信を持たせていく必要がある。読書好きの児童についても昨年度よりは増えたが、全国・大阪市に比べてもまだまだ多くないので、読書活動をさらに推進し、本に親しむ児童の育成を図る必要がある。

今後の取組

言語活動を通して、適切に表現したり、正確に理解したりする力「伝え合う力」の育成に取り組んできているが、さらに、向上させるために、意識して話したり、聞いたりできるように指導していく中で、終わりまできちんと聞こう、話そうとする力を伸ばしていく。また、授業の中で発表する活動を多く取り入れたり、考えをまとめる時間の確保に努め、進んで意見が言える力を伸ばしていく。

学習内容の習得に向けて個人差を解消するために、単元に応じて習熟度別少人数授業をさらに進め、それぞれの課題に応じたきめ細やかな指導の工夫に努めていく。

要旨をまとめたり、理由や根拠を明確にしながら述べたりする力を伸ばすため、考えを多く発表する機会を多く設定するとともに、基礎的・基本的な知識・技能のさらなる定着を図っていく。

【 全体の概要 】

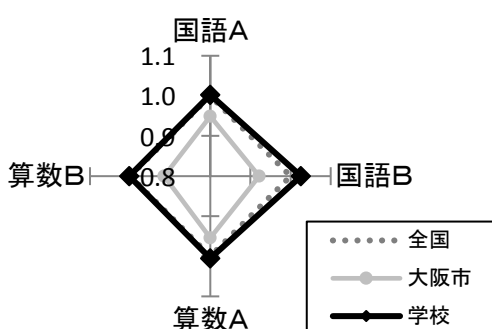
平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	75	59	79	46
大阪市	71	53	75	42
全国	74.8	57.5	78.6	45.9

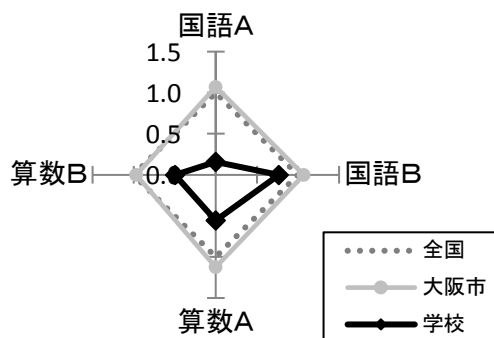
平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	0.4	3.3	0.9	3.2
大阪市	3.0	4.6	1.8	6.2
全国	2.8	4.3	1.6	6.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



【 国語 】

A 問題

平均正答率(%)

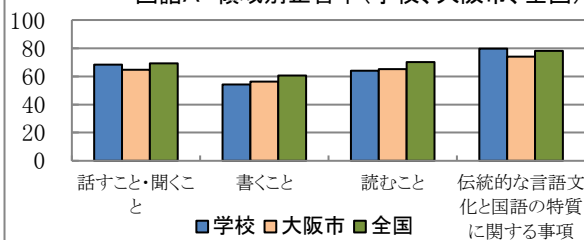
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率(%)		
					学校	大阪市	全国
話すこと・聞くこと	1	68.3	64.6	69.2			
書くこと	2	54.2	56.2	60.6			
読むこと	3	63.9	65.2	70.2			
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	11	79.7	74.0	78.0			

B 問題

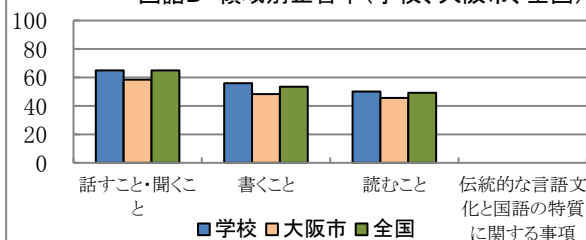
平均正答率(%)

学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率(%)		
					学校	大阪市	全国
話すこと・聞くこと	3	65.0	58.4	64.9			
書くこと	5	56.0	48.3	53.4			
読むこと	3	50.0	45.5	49.2			
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—	—			

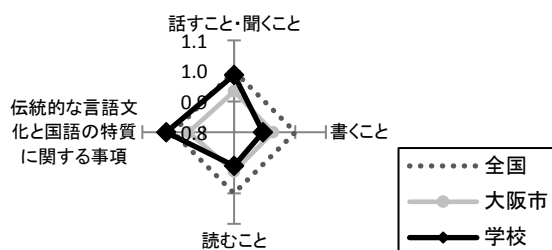
国語A 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



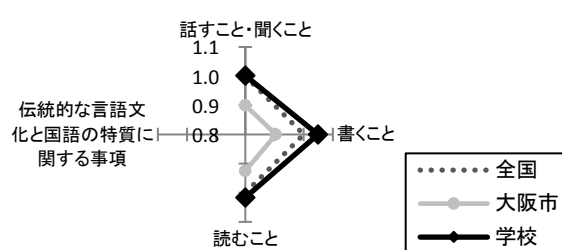
国語B 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語A 領域別正答率(対全国比)



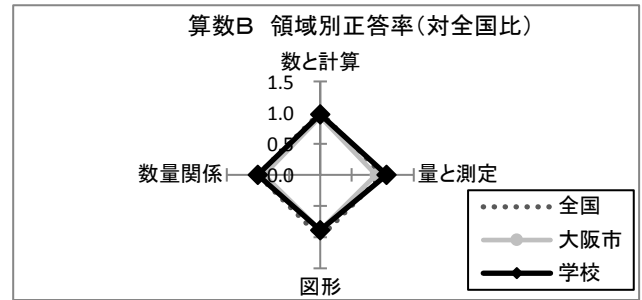
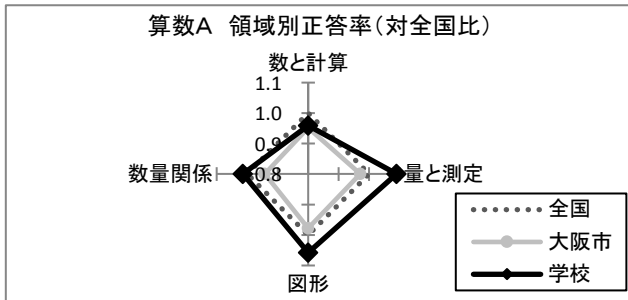
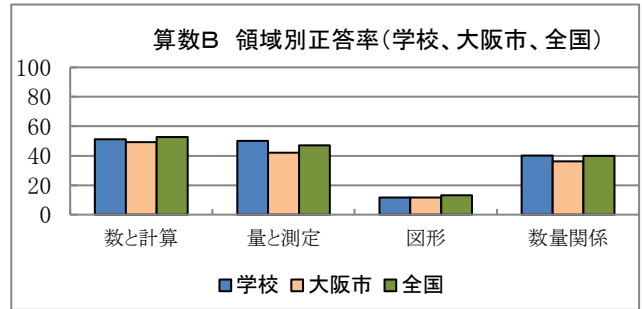
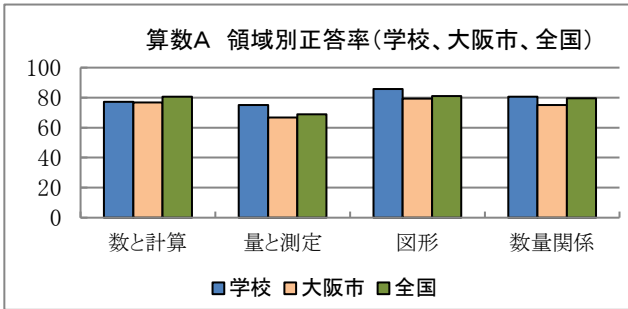
国語B 領域別正答率(対全国比)



【 算 数 】

A 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	8	77.3	76.7	80.6
	量と測定	2	75.0	66.8	68.8
	図形	2	85.8	79.3	81.1
	数量関係	5	80.7	75.0	79.6

B 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	5	51.3	49.2	52.8
	量と測定	2	50.0	42.0	47.0
	図形	1	11.7	11.7	13.2
	数量関係	8	40.2	36.1	40.0



児童質問紙より

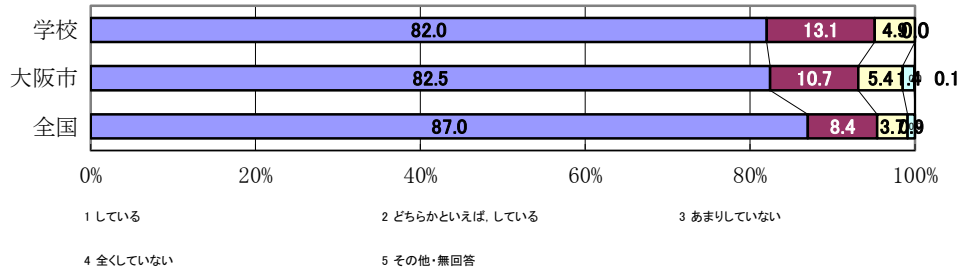
■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8 ■ 9 ■ 10

質問番号

質問事項

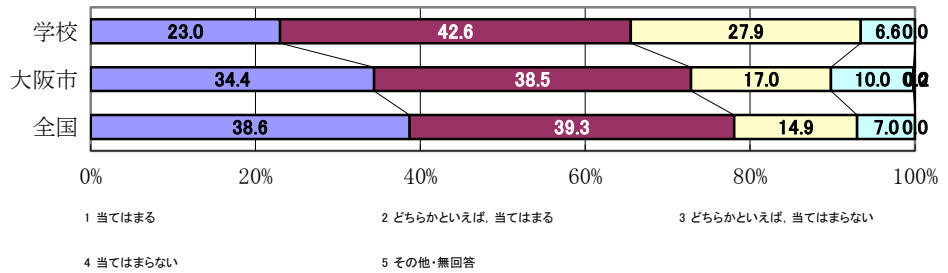
1

朝食を毎日食べていますか



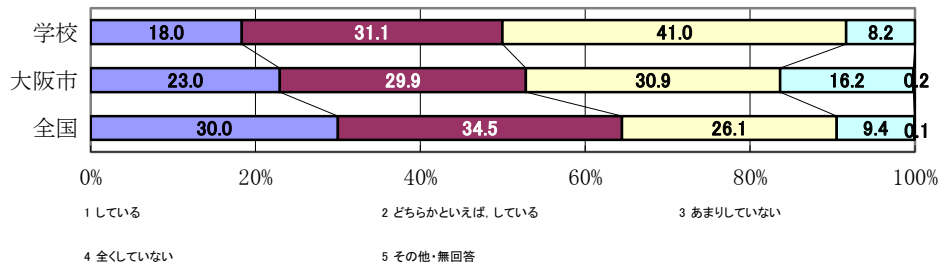
6

自分には、よいところがあると思いますか



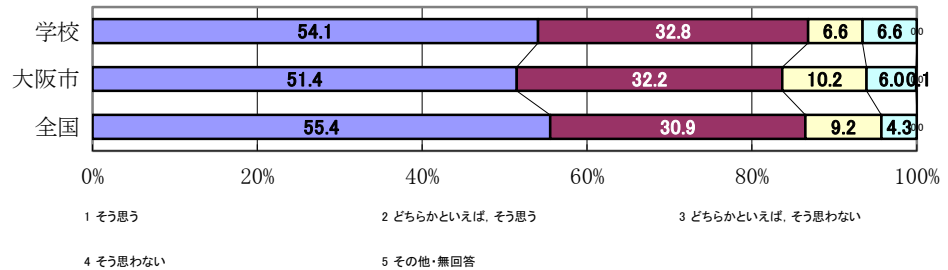
29

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



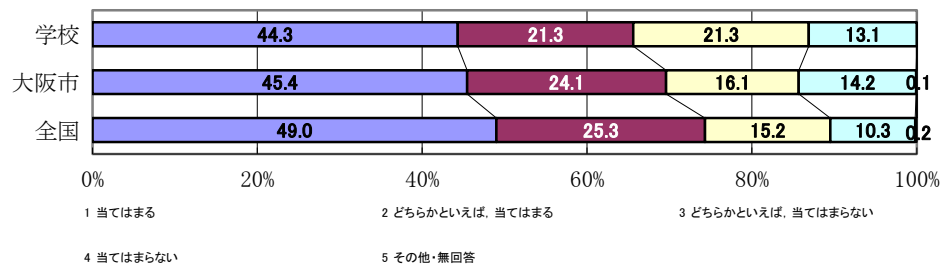
33

学校に行くのは楽しいと思いますか



72

読書は好きですか



学校質問紙より

□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8 □9 □10

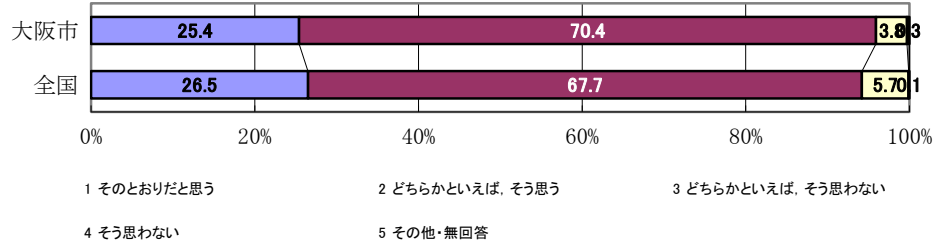
質問番号

質問事項

12

調査対象学年の児童は、
熱意をもって勉強している
と思いますか

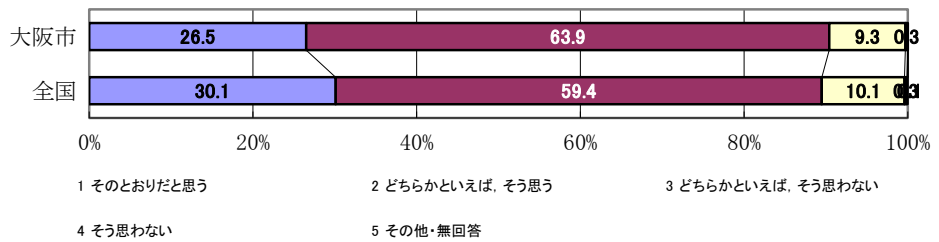
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



14

調査対象学年の児童は、
礼儀正しいと思いますか

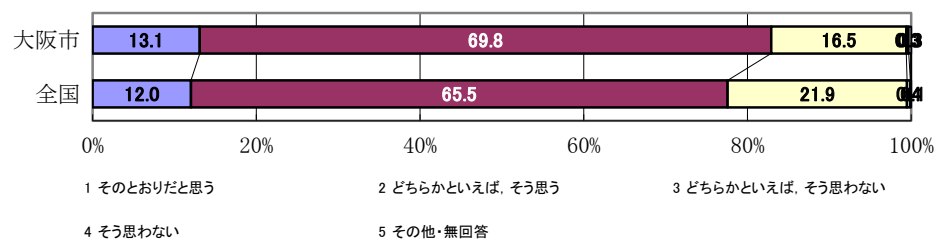
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



15

調査対象学年の児童は、
学級やグループでの話し
合いなどの活動で、自分の考
えを相手にしっかりと伝える
ことができていると思います
か

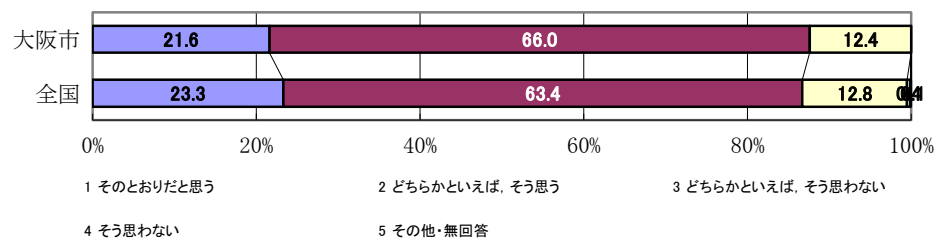
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



16

調査対象学年の児童は、
学級やグループでの話し
合いなどの活動で、相手の考
えを最後まで聞くことができ
ていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



35

調査対象学年の児童に対し
て、前年度までに、各教科等
の指導のねらいを明確にした
上で、言語活動を適切に位置
付けましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択

